

実践のまとめ（第2学年 道徳科）

十日町市立中条中学校

教諭 志賀 洸介

1 研究テーマ

多様な考えにふれ、自己を見つめ、考えを深めることのできる授業の工夫

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領の道徳科の目標には「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」とあり、今後グローバル化が進展する中、社会を構成する主体となる一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含め、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協調しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要だと示されている。

道徳の教材の内容や登場人物の気持ちについて考えたり、仲間の考えにふれたりすることで、物事を広い視野から捉え、自己の考えを深め、よりよい生き方ができるようにしたいと考えた。また、自分自身の日々の授業を振り返ると、生徒は班での意見交換で、個の考えの共有は行っているが、そこから考えを深めることが上手くできていない。以上のことから本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 興味関心を掻き立てる工夫

- ・自分ごととして考えやすい導入の工夫。
(興味関心もてるタイムリーな話題の掲示など)
- ・生徒の発言に対し、思考を揺さぶる切り返し発問の工夫。
- ・生徒の考えを深める中心発問や授業展開の工夫。

② 時間の確保

- ・教材の内容理解の時間を短縮し、考える時間や議論する時間を多くする。
(ICTの活用や朝読書時間の活用など)
- ・考えを深めるために複数の問いを投げかける(基本発問①②)。その際、中心発問でじっくりと考えさせるために、あえて基本発問①②では道徳ノートに記述させない。
(その分、キーワードのみ黒板に書き出す)

③ 思考の可視化

- ・自分自身、仲間の考えを可視化し、整理できるような道徳ノートやホワイトボード活用の工夫。

(3) 研究テーマにかかわる評価

生徒の意見の変容や価値への気づきを、授業中の発言や道徳ノートの記述から見取る。

3 指導計画

(1) 主題名

同じ人なんていない（内容項目 B－9 相互理解、寛容）

(2) 教材名

「注文をまちがえる料理店」（教科書名 東京書籍 新しい道徳2）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

人には、それぞれ自分なりのものの見方や考え方があり、個性がある。そこで大切なことは互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。私心のない寛容の心や他者の意見を認めて素直に取り入れる謙虚さをもって他に学び、自己を高められるようにしたい。

② 教材と生徒

本教材は、「間違いを受け入れ、一緒に楽しむ」という気持ちをもって集まった人々が紡ぐ温かな物語である。話し合い活動を通して、様々なものの見方や考え方があることを理解するとともに、多様な人々の存在を認め、おおらかな気持ちで受け入れることの大切さについて深く考えることのできる教材である。他者の間違いをとことん非難する出来事も少なくない昨今、大切にしたい道徳的価値である。

2年1組は男子14人、女子13人のクラスである。与えられた課題や役割に対して、熱心に取り組む姿勢が見られ、班活動の中で、自分の意見を仲間に伝えることのできる生徒が多い。しかし、ものの見方や考え方が確立してきている一方で、それに固執している傾向も見られる。「あの人はこういう人」と決めつけて、人間関係のトラブルになることもあった。また、話し合い活動の中で、特定の生徒の考えに引っ張られ、個々の考えがなかなか深まらないと安易に納得する生徒がいる。「この人が言っているから間違いはない」と短絡的に捉えるのではなく、広い視野で様々なものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てたい。

本教材を通して、互いに相手のことを理解し、価値のある存在として認めていくために、どのようなことが大切かを深く考えさせるとともに、話し合いを通して、自分と違う意見を聞き、学びとろうとしたり、考えを深めたりする態度を育てたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学期	保健体育・単元「球技」	「遠足で学んだこと」（4月） B-9 認め合う心	学級活動「学級組織づくり」 （4月）
2 学期	英語・異文化理解	「注文をまちがえる料理店」 （9月） B-9 認め合う心	「体育祭」（9月） 「合唱コンクール」（10月） 小中合同いじめ見逃しゼロス クール集会（11月）

3 学期	保健体育・単元「球技」		修学旅行（3月）
---------	-------------	--	----------

(5) 本時のねらい

それぞれの個性や立場を尊重し、様々なものの見方や考え方があることを理解し、寛容な心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく態度を育てる。

(6) 本時の展開

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
事前活動 15分 朝活動	<input type="checkbox"/> 朝活動で「相互理解」についての自身の考えを道徳ノートにまとめる。（5分） <input type="checkbox"/> 朝活動で「注文をまちがえる料理店」を読む。（5分） <input type="checkbox"/> 気になったところや「あれ？」と思ったところを道徳ノートに書く。（5分）	<input type="checkbox"/> 互いに相手のことを理解し、認めていくためには、どのようなことが大切だと思いますか？ <input type="checkbox"/> 読み終わった人は、文章の中で気になったところ、「あれ？」と思ったところをノートに書いてください。	◇生徒一人一人の「相互理解」についての考えを、1枚のプリントに書き出し、授業の導入で示せるように準備を行う。
導入 2分	<input type="checkbox"/> 「相互理解」についての考えを共有する。考えを書き出したプリントを各自で読む。（2分）	<input type="checkbox"/> 「相互理解」について、クラスの仲間がどんなふうに考えているか見てみよう。	◇感想を共有することで多様な考えに触れさせる。
展開 38分	<input type="checkbox"/> 認知症について知る。（3分） <input type="checkbox"/> 「注文をまちがえる料理店」を考えた小国士朗さんの考え	<input type="checkbox"/> 認知症という病気を知っていますか？ ・物事を忘れてしまう。 ・物事を覚えられない。 ・高齢者がかかる病気。 <input type="checkbox"/> 「注文をまちがえる料理店」を考えた小国士朗さんの考えや、このお店のコンセプトを確認し	◇認知症の症状や世界の認知症患者数など、視聴覚機器を活用しながら説明する。 <u>◇口頭で答えさせ、視聴覚機器を見ながら説明を聞かせる。</u> <u>◇視聴覚機器を見ながら説明を聞かせる。</u>

<p>や、このお店のコンセプトを確認する。</p> <p>□基本発問①（5分） ペア→全体</p> <p>□「注文をまちがえる料理店」の映像を見る。（5分）</p> <p>□基本発問②（5分） 「価値に迫る」 ペア→全体</p> <p>□中心発問（20分） 「考えを深める」</p> <p>①ホワイトボードを活用し、班のメンバーで話し合いを行う。（10分） 班長…司会 副班長…書記</p> <p>②班長による全体発表と、発表に対しての質問。（10分）</p>	<p>ます。</p> <p>○こんなお店があったら、あなたは行きますか？それとも行きませんか？</p> <p>○「注文をまちがえる料理店」で注文や名前を間違えても怒る人がいないのはなぜだと思いますか？反対に「ありがとう」という言葉が飛び交い、笑いが絶えないのはなぜだと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員が認知症であることを知っている。 ・今できることを精一杯行っている様子に感動した。 <p>○なぜ、このお店にお客さんは「また来たい」と答えるのだと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい料理があるから。 ・楽器演奏が聞きたいから。 ・間違えられる面白さやスリルがあるから。 ・間違えたりできなかつたりしてもいいのだという温かい雰囲気があるから。 ・大らかな心で、ゆとりをもって過ごすことのできる時間や空間。 ・多様な人の存在を知り、理解することが大切だということに気 	<p>◇なぜそう思ったかを切り返して質問し、具体的に答えさせる。「行く」、「行かない」、その理由のキーワードのみ板書する。</p> <p>◇道徳ノートには記述させない。</p> <p>◇「注文をまちがえる料理店」のHPの『当日のイベントの様子』の映像を見せる。</p> <p>◇数名の生徒を指名し、答えさせる。出た意見のキーワードのみ板書する。</p> <p>◇道徳ノートには記述させない。</p> <p>◇生徒に問いかけながら、相手のことを理解すること、認めることの大切さを感じさせたい。</p> <p>◇出てきたキーワードをホワイトボードに書かせる。</p> <p>◇発表はキーワードをもとにどんな話題が出たかを具体的に発表させる。</p> <p>◇各班の発表に対して、気になったところ、もっと聞きたいと思ったところを質問させる。</p>
--	--	---

		付くこと。 ・障がいや病気のある人でも輝ける場がある喜び。 ・障がいや病気のある人もない人も、同じ場所で楽しく過ごせる場所があるという安心感。 ・多様な人を理解し、受け入れることのできる人間的な温かさやぬくもり。	
終末 10分	<input type="checkbox"/> 学んだことを道德ノートに書く。(8分) <input type="checkbox"/> 教師の説話(2分)	<input type="checkbox"/> 互いに相手のことを理解し、認めていくためには、どのようなことが大切だと思いますか？今日の授業で感じたこと、考えたこと、学んだことも含め、書きましょう。	<input type="checkbox"/> 振り返りの時間を十分に確保し、自分自身としっかり向き合わせる。 ・ノートの記述で評価する。

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・他者との考えの交流から、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させていたか(思考を深めたか)。

② 評価の方法

- ・道德ノートを活用し、生徒の道徳的価値についての考えや気付き、変容を捉える。
- ・生徒同士の交流や全体の意見発表の活動の様子を見取る。

(8) 板書計画

9/27 注文をまちがえる料理店

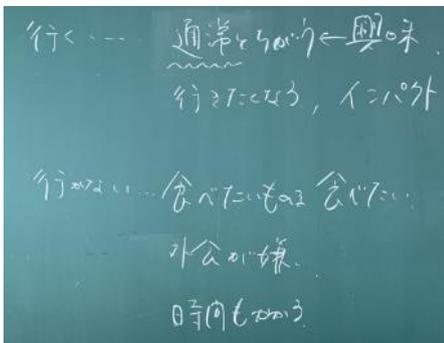
<p>Q1 行く</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>行かない</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>Q2</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>・○○○○○○○○○○</p> <p>・○○○○○○○○○○</p>	<p>Q3</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> <td style="width: 33%; height: 60px;"></td> </tr> </table>							<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> テレビ </div>

4 実践を振り返って

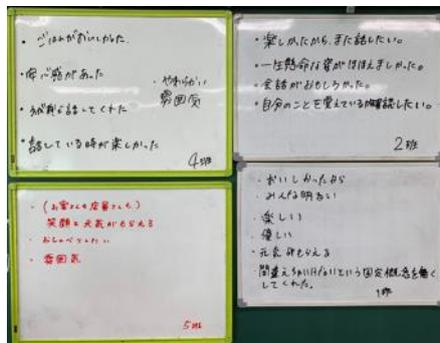
(1) 授業の実際

授業中に話合いの時間、振り返りの時間を十分に確保するため、朝活動の時間に「相互理解」についての考えを書く時間、教科書を読む時間を設定した。朝活動で書かせた考えを1枚にまとめ、授業のはじめに配付し、仲間の考えを共有してから活動に入った。まず、視聴

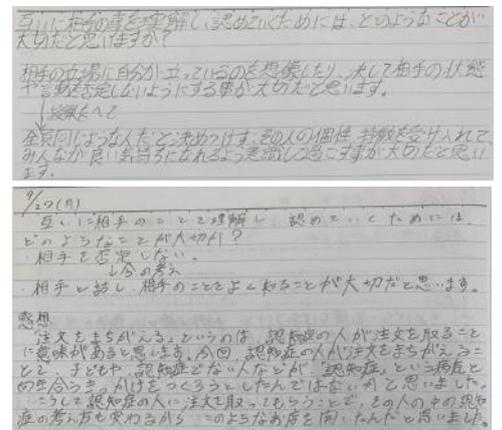
覚機器を活用して認知症について説明し、「注文をまちがえる料理店」を考えた小国さんの考えやお店のコンセプトの確認した上で、基本発問①を問いかけた。基本発問①では、多くの生徒が「行く」を選択する中、少人数ではあったが、「注文を間違われることなく自分が頼んだものを食べたい」「時間がかかりそう」等の理由から「行かない」を選択する生徒もいた。その後、実際のイベントの様子を映像で見せた。映像を見ている様子や、後の基本発問②の回答から、教科書で読むよりも、認知症である従業員と客が関わる様子や、お店の雰囲気伝わった。中心発問では話合いの時間を多く確保するために、あえて個でノートに記入する時間をとらず、すぐに班ごとの話合いに移った。十分な時間を確保したことでの班も、発問に対してしっかり意見を出し合えた。その後、全体共有を行なった。各班の発表に対し、質問の時間を確保し、生徒、また教師自身が気になったことを質問した。その後、朝活動で生徒に聞いた「相互理解」についての質問と同じ発問を行い、授業の振り返りと合わせて道徳ノートに記入させた。授業前と大きく考えが変わった生徒は見られなかったが、記述から考えが深まった生徒は多くいた。



基本発問①



中心発問（班活動）



生徒振り返り

(2) 研究テーマに関わって

① 興味関心を掻き立てる工夫

実際の様子を、映像で見せることでイメージがつきやすく、生徒は関心をもって活動に取り組むことができた。基本発問や中心発問の際に切り返しの発問も何度か行なったが、状況に応じて、もう少し生徒の思考を掻き立てる発問ができたほうがよい場面があった。

② 時間の確保

朝活動の時間を利用し教科書を読ませたり、視聴覚教材を活用しながら説明をしたりしたことで、後半の話合い活動の時間や個の振り返りの時間をしっかりと確保できた。時間が確保できたことで様々な考えに触れ、より思考を深めることができた。

③ 思考の可視化

今回の授業では、授業前後で同じ問いをし、道徳ノートに記入させた。1時間の授業を通して自己の考え方や思いがどのように深まったかを自分自身でしっかりと確認できて良かった。

(3) 今後の課題

授業後の協議会の中で、料理店を企画した小国さんの考えやそこを訪れる客の気持ち、認知症についてなど、様々なところを切り口に授業展開ができるのではないかと意見をいただいた。実話で生徒の興味関心を掴みやすい教材だったので、「生徒にこの1時間で何を考えさせたいのか」を明確にし、限られた時間の中でできる手立てを取捨選択する大切さを改めて感じた。今年度、研修会や自校の道徳授業実践などを多く参観し、学んだこと、考えたことを生かし、これからも「考え議論する道徳」を作り上げていけるように努力したい。